

## 第6学年 音楽科指導案

- 1 題材名 いろいろな音のひびきを味わおう
- 教材名 表現 「ラバーズ コンチェルト」(デニーランデル、サンデーリンザー 作曲)
- 鑑賞 「メヌエット」(ペツォルト 作曲)
- 「木星」(ホルスト 作曲)
- 音楽づくり 「リズムをつくってアンサンブル」

## 2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

- |        |       |   |
|--------|-------|---|
| A 表現   | (2) ア | 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること。                                  |
|        | イ     | 曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。                                    |
| B 鑑賞   | ウ     | 楽器の特徴を生かして旋律楽器および打楽器を演奏すること。                                      |
|        | エ     | 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。                               |
|        | (3) イ | 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。                   |
|        | ア     | 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。   |
|        | イ     | 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。                          |
| [共通事項] | ウ     | 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。                |
|        | ア     | (f) 音色 リズム 速度 旋律 強弱 音の重なり 拍の流れ フレーズ<br>(i) 反復 問いと答え 変化 音楽の縦と横との関係 |

### (1) 題材観

音楽づくりは、児童が自らの感性や創造性を働かせながら、自分にとって価値のある音や音楽をつくる活動である。特に高学年では、既習の音楽表現を生かし様々な発想をもって表現したり、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくったりすることをねらいとしている。

本題材は、役割の異なるパートの音が重なり合う響きを感じ取り、楽器の特徴を生かした合奏や音楽づくりをしたり、オーケストラの様々な楽器の組合せから生まれる響きを味わったりする。こうした表現と鑑賞を関連付けた活動から、楽器の組合せから生まれる響きの美しさを味わい、パートの役割や楽器の特徴を生かすように表現を工夫させながら、学習の充実を図っていく。

「ラバーズ コンチェルト」では、主旋律、副旋律、和音、低音の四つのパートの役割を考え、それぞれ楽器を選択して演奏する。そうすることで、児童が主体的に聴き合ったり、楽器の選択を試行

錯誤したりして合奏することができるだろう。また、原曲「メヌエット」のチェンバロでの演奏を聴かせることによって、合奏とは異なる響きのよさを味わわせたい。

「木星」では、弦楽器、管楽器、打楽器を用いたオーケストラによる豊かな響きを聴くことによって、楽器の重なりによる響きの美しさを感じ取らせたい。

「リズムをつくってアンサンブル」では、これまでの活動をもとに、打楽器の音色を感じ取って、響きのよい組合せを考え、少人数のグループでリズムアンサンブルをつくる。児童はこれまでに、「がっきでおはなし」（2年生）、「言葉でリズムアンサンブル」「打楽器の音楽」（4年生）、「リズムをえらんでアンサンブル」（5年生）などでリズムアンサンブルの活動を経験してきている。6年生では、さらに反復、変化などの音楽を形づくっている要素に着目させ、音楽の仕組みを生かした創作活動ができるよう指導していきたい。

また、音楽づくりの活動において、記譜することや読譜することは、つくった音楽を伝え合うための重要な手段の一つである。自分や友達がつくった音楽を楽譜として残し、他人と共有することができれば、今後の音楽活動はより豊かなものになるだろう。学習を進めるにあたり、楽譜を読み取ったり楽譜に残したりする活動も、大切にしていきたい。




## (2) 児童の実態

6年1組は男子16名、女子15名、計31名（うち、特別支援学級児童1名）である。


本学級の児童は、音楽活動にとっても意欲的であり、歌詞の内容を想像しながら歌を歌ったり、初めて聴く音楽に興味をもって耳を傾けたりしている。合奏の授業では、様々な楽器に積極的に取り組もうとしている一方で、周りの音を聴かずに自分のパートを大きな音で演奏したり、テンポがずれてしまったりする児童もいる。また、楽譜から階名やリズムを読み取れずに、苦勞している児童も多い。四分音符や八分音符を使った簡単なリズムに関しては、「タン」や「タタ」といったリズムを記入させることで読めるようになる児童もいるが、教師や友達の援助を要する子も少なくない。

打楽器を演奏した経験については、多くの児童が3～4種類以上の打楽器に触れており、「楽しかった」「他の打楽器も演奏してみたい」など、意欲的な答えが見られた。

リズムの技能に関して、事前調査を行ったところ、以下のような結果となった。

音符のリズムを読んで、リズム打ちができますか？	読めて打てる	読み方が分かれば打てる	打てない
	26人 (83.9%)	3人 (9.7%)	2人 (6.4%)
	12人 (38.7%)	11人 (35.5%)	8人 (25.7%)
	7人 (22.6%)	13人 (41.9%)	11人 (35.5%)

四分音符、四分休符だけのリズムに関しては、多くの児童が「読めて打てる」が、八分休符や付点四分音符などのリズムが入ると、途端に読譜力が落ちてしまう。一方で、リズム読みができれば、リズム打ちができるようになる児童もいる。

下の音符をいくつか使って、2小節（8拍）の リズムをつくれますか？	つくれる	つukれない（8つ の音符を並べた）	つukれない
	6人 (19.4%)	14人 (45.1%)	11人 (35.5%)

正しく2小節のリズムをつくることができた児童は少なかったが、「8拍」を意識して、音符を8つ並べる、という誤答が多かった。「8拍」や「2小節」の意味は理解した上で、それぞれの音符の長さがかめていない児童が多いようだった。

また、実態調査を通して、「音符の勉強は苦手、嫌い」といった声も上がった。こういった記譜や読譜に対する苦手意識が、リズムづくりの活動に影響しないように、配慮しながら指導をしていきたい。

### (3) 指導観

第一次「ラバース コンチェルト」では、第5学年で扱った「リボンのおどり」「キリマンジャロ」などの経験をもとに、パートごとの役割や、どのパートにどの楽器が合うかについて、適切に判断させていく。また、クラスを3つのグループに分け、それぞれ楽器の組合せを考えさせて演奏することで、自分たちの演奏と違うよさに気付き、味わうことができるだろう。最後に「メヌエット」を聴かせることで、大人数の合奏ではない「独奏」という演奏形態や、3拍子の曲が4拍子になっているという面白さにも気付かせていきたい。

第二次「木星」では、第5学年で扱った弦楽曲「アイネクライネナハトムジーク第1楽章」、吹奏楽曲「双頭のわしの旗の下に」を想起させ、それぞれの演奏形態のよさを確認し、その上でそれらの楽器が組み合わさった管弦楽曲「木星」の響きの豊かさを味わわせていきたい。また、ただ楽器が組み合わさっただけでなく、曲中の弦楽器のみの部分や管楽器のみの部分に着目させ、一つの楽曲でさまざまな場面や雰囲気をつくり出せるというオーケストラの魅力についても気付かせていきたい。

第三次「リズムをつくってアンサンブル」は、「楽器の特徴を生かして2小節のまとまりのリズムをつくる」「つくったリズムを用い、音楽の仕組みを生かして、リズムアンサンブルをつくる」という二つの活動からなる。児童はこれまでに、2年生「がっきでおはなし」で反復や問いと答えを生かした音楽づくりをしたり、3年生「まほうの音づくり」で楽器の奏法や音色を工夫して自分のイメージにあった音づくりをしたりしてきた。また、5年生「リズムをえらんでアンサンブル」では、既存のリズムにあった楽器を選び、それらを組み合わせることでアンサンブルをつくる活動を行ってきた。6年生ではこれまでの学習を踏まえ、選んだ楽器にふさわしいリズムを一から自分たちで考えさせ、反復や問いと答えといった音楽の仕組みを生かしたリズムアンサンブルをつくらせていきたい。

第7時、第8時では、これまで触れてきた打楽器にもう一度向き合い、その楽器にあったリズムを実際に楽器で音を出しながら試行錯誤させていきたい。指導にあたっては、最初に四分音符7拍+四分休符の「基本のリズム」を8枚のカードで提示し、カードを組み替えることでリズムづくりを行っていく。そうすることで、1からリズムをつくったり、つくったリズムを楽譜に表したりすることを苦手とする児童でも、比較的容易にリズムをつくることができるだろう。

第9時、第10時では、前時に自分たちがつくったリズムを用いて、3パートのリズムアンサンブル

ルをつくっていく。リズムアンサンブルは第4学年、第5学年で経験しており、今回は自分たちのリズムを用いてアンサンブルをつくるため、創作の意欲は高まるだろう。その活動の中で、反復や問いと答え、変化など、音楽を形づくっている要素を知覚させ、そのよさを味わわせていきたい。

また、つくった2小節のリズムやリズムアンサンブルを、他の人に聴かせたり、友達同士でアドバイスをしあったりすることによって、児童は自分たちの音楽が受け入れられていくことに喜びを感じるだろう。その気持ちは、向上心や更なる創作意欲につながるものである。第3次を通して、そういったお互いの発表を認め合えるような活動も積極的に取り入れていきたい。

### 3 題材の目標

○パートの役割や楽器の特徴を生かして全体の響きを味わって演奏したり、楽器の組合せから生まれる響きの美しさを味わって聴いたりする。

○楽器の音色やリズム、音楽の仕組みを生かして、音楽をつくったり演奏したりする。

### 4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<p>① 楽器の響きに興味・関心をもち、範奏を聴いて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>② オーケストラの響きに興味・関心をもち、楽器の響きや楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>③ 楽器の音色やリズムの特徴に興味・関心をもち、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かしてリズムアンサンブルをつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>④ 自分たちがつくった</p>	<p>① 楽器の音色や旋律の特徴を聴き取り、その重なり合いによって生まれる響きのよさを感じ取りながら、パートの役割を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をもっている。</p> <p>② いろいろな音楽表現を生かし、どのような音楽をつくるかについて、思いや見通しをもっている。</p> <p>③ 楽器の音色やリズムを聴き取り、組合せによる響きの良さや面白さを感じ取りながら、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を</p>	<p>① 楽器の音色に気を付け、それらが重なり合う響きを聴き合いながら、パートの役割や楽器の特徴を生かして合奏している。</p> <p>② いろいろな音楽表現から得た発想を基に、楽器の特徴を生かしたりリズムをつくっている。</p> <p>③ 反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かして、リズムアンサンブルをつくっている。</p>	<p>① 楽器の音色、旋律の反復や変化、拍子の違いを聴き取り、それらの働きから生まれるよさや面白さを感じ取り、楽曲の構造を理解したり楽曲全体にわたる曲想を味わったりして聴いている。</p> <p>② 曲想とその変化の特徴、楽器の音色と旋律の反復や変化、拍子の違いなどとの関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴やオーケストラの響きのよさを理解している。</p>

リズムアンサンブルを 発表したり、友達の発表 を聴いたりする活動に 主体的に取り組もうと している。	かした音楽をつくり、ど のような音楽にするか について見通しをもっ ている。		
--	---	--	--

## 5 研究の視点について

### 【視点1】9年間を見通した学び方の共有

本題材で扱われている〔共通事項〕のうち「リズム」「拍の流れ」に関しては、9年間を通して表現、鑑賞、音楽づくりの様々な活動で扱われている。リズムや拍の流れを感じながら歌を歌ったり楽器を演奏したり、あるいは音楽を聴いたりすることは、音楽科において最も基本的なことであり、9年間に渡り、確実に定着を図りたい要素でもある。

リズムや拍の流れを感じる活動は、小学校低学年における、音楽に合わせて手をたたいたり、打楽器を演奏したりすることから始まる。中学年では、シンコペーションのあるリズムを打楽器や音律楽器で演奏したり、拍の流れに合わせて簡単なリズム伴奏をつくったりする活動が加わる。高学年では、楽器の音色や音楽の仕組みを生かしてリズムを組み合わせる「リズムアンサンブル」の活動が行われる。中学校では継続して「リズムアンサンブル」の活動が行われているが、小学校高学年の活動と比較すると、より複雑なリズムが用いられている。

そのため、中学校での創作活動をより豊かに行うには、小学校6年間のうちにリズム、拍の流れについての感覚や知識を身に付けておくことが必要である。本題材では2小節のリズムを一人ずつ作成し、それらを組み合わせることによって、一人一人が主体的に音楽にかかわる活動の中で、簡単なリズム譜を読んだり書いたりするなど、中学校での活動の足掛かりとなるような音楽活動の能力をつけさせていきたい。

また、つくった作品をお互いに聴かせあったり、アドバイスをしあったりする活動を取り入れることで、協同的に学びあう場を設定した。自分がつくったリズムを友達に褒めてもらったり、アドバイスをもらったりすることで、その児童自身が自己肯定感をもつことができるだろう。また、グループ活動においては、友達同士で協力しながら一つのリズムアンサンブルをつくっていく。他人から認められたという意識をもたせたり、一人一人が主体的に創作活動にかかわったりすることによって、音楽づくりに対する意欲をより高められるように学習を進めていく。

6 題材の指導計画（10時間扱い）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
第一次		ねらい 旋律の特徴から、そのパートにふさわしい楽器を選ぶ。	
	第1時	<p>○範奏のCDを聴いて、曲の特徴をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・範奏ではどのような楽器が使われているか考える。</li> </ul> <p>○旋律の特徴から、どのような楽器がふさわしいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①～④のパートの役割について考える。</li> <li>・主旋律、副旋律、和音、低音、それぞれのパートにあった楽器を考え、グループで話し合う。</li> </ul>	<p>楽器の響きに興味・関心を持ち、範奏を聴いて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>（音楽への関心・意欲・態度①）</p>
		ねらい パートの役割を考え、全体のバランスを工夫して演奏する。	
	第2・3時	<p>○グループ内で楽器を決め、練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時の話し合いを元に楽器を決める。</li> <li>・自分のパートを練習する。</li> <li>・曲調に合うようなリズム伴奏を工夫して加える。</li> </ul> <p>○グループでパートの役割や全体のバランスを考えながら練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いのパートを聴き合いながら、バランスに気をつけて演奏する。</li> </ul>	<p>楽器の音色や旋律の特徴を聴き取り、その重なり合いによって生まれる響きのよさを感じ取りながら、パートの役割を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の思いや意図を、もっている。</p> <p>（音楽表現の創意工夫①）</p>
	ねらい グループごとに発表し、音色や響きの違いを楽しんで聴き合う。		
	第4時	<p>○グループごとに発表をし、お互いの音色や響きの違いを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音が重なり合う響きや音量のバランスに気をつけ、演奏の仕方を工夫する。</li> <li>・グループごとに、自分たちの思いや意図を生かして発表しお互いに聴き合いながら響きの違いを味わう。</li> </ul> <p>○「メヌエット」のチェンバロでの演奏を聴き、音色や曲想の違いを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3拍子であることに気付く。</li> <li>・楽器の音色に着目し、合奏とは違った雰囲気味わう。</li> </ul>	<p>楽器の音色に気を付け、それらが重なり合う響きを聴き合いながら、パートの役割や楽器の特徴を生かして合奏している。</p> <p>（音楽表現の技能①）</p> <p>楽器の音色、旋律の反復や変化、拍子の違いを聴き取り、それらの働きから生まれるよさや面白さを感じ取り、楽曲の構造を理解したり楽曲全体にわたる曲想を味わったりして聴いている。</p> <p>（鑑賞の能力①）</p>

第二次	ねらい 「木星」のオーケストラの響きを味わう。	
	第5時	<p>○オーケストラの楽器のいろいろな音色を味わって聴き、楽曲全体にわたる曲想を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を通して聴き、曲全体の感じをつかむ。</li> <li>・使われている楽器やその音色について、感じたことを発表する。</li> </ul> <p>○旋律の反復や変化、音色の変化などから楽曲の構造に気付いて聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律を聴いて、幾つの部分で構成されているか考える。</li> <li>・それぞれの部分で演奏している楽器に注目して聴き、拍子や曲調の変化を感じ取る。</li> </ul>
第二次	ねらい 旋律の反復や変化、曲想の移り変わりのよさや面白さを味わって聴く。	
	第6時	<p>○曲想の移り変わりや、オーケストラの豊かな響きが変化していくよさや面白さを味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の数が変化することに伴う、オーケストラの響きの変化に注目して聴く。</li> <li>・再現部では、最初と比べどのように音楽が変化したか気を付けて聴く。</li> <li>・曲想の移り変わりや音楽を形づくっている要素のかかわり合いから、想像したことや感じ取ったことを発表する。</li> </ul>
第三次	ねらい いろいろな打楽器に触れ、音を出したり奏法を確認したりしながら、それぞれの楽器の特徴を知覚する。	
	第7時	<p>○「リズムアンサンブル」の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決まったリズムを、手拍子で交互に打ったり一緒に打ったりしながら、リズムアンサンブルの楽しさを味わう。</li> </ul> <p>○打楽器を使ったアンサンブルをする学習の見通しをもつ。</p> <p>○打楽器の奏法を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知っている打楽器はどのようなものがあるか挙げる。</li> <li>・それぞれの楽器について材質や特徴、奏法などを確認する。</li> </ul> <p>○色々な打楽器に触れ、グループ内で楽器の役割分担をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の組合せやバランスを考えながら楽器を決め、3つのパートに分担する。</li> <li>・自分の選んだ楽器について、どのようなリズムをつくりたいかイメージをもち、ワークシートに記入する。</li> </ul>

ねらい 音色の特徴やよさを感じ取りながら、楽器の特徴を生かした2小節のリズムをつくる。		
第8時 (本時)	<p>○2小節のリズムをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2小節(8拍)になるように、音符を当てはめてリズムをつくる。</li> <li>・楽器の音色の特徴にあったリズムを考える。</li> </ul> <p>○グループ内で聴き合い、アドバイスしあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のつくったリズムが、楽器の性質にあっているか考える。</li> </ul> <p>○簡単なアンサンブルをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに、1パートずつ→全員、の流れで演奏をする。</li> </ul>	<p>いろいろな音楽表現から得た発想を基に、楽器の特徴を生かしたリズムをつくっている。</p> <p>(音楽表現の技能②)</p> <p>楽器の音色やリズムの特徴に興味・関心をもち、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かしてリズムアンサンブルをつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>(音楽への関心・意欲・態度③)</p>
ねらい つくったリズムをもとに、反復や問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かしてリズムアンサンブルをつくる。		
第9時	<p>○反復、問いと答え、変化など、音楽を形づくっている要素を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成の図を見たり、実際に演奏したりしながら確認をする。</li> </ul> <p>○グループでリズムアンサンブルをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の構造や、音楽を形づくっている要素を意識しながらグループでリズムアンサンブルをつくる。</li> </ul>	<p>楽器の音色やリズムを聴き取り、組合せによる響きの良さや面白さを感じ取りながら、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を使って楽器の特徴を生かした音楽をつくり、どのような音楽にするかについて見通しをもっている。</p> <p>(音楽表現の創意工夫③)</p> <p>反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かして、リズムアンサンブルをつくっている。(音楽表現の技能③)</p>
ねらい つくったリズムアンサンブルを発表し聴きあう。		
第10時	<p>○それぞれのリズムアンサンブルを発表し、聴き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンサンブルをつくるときに工夫した点を説明してから発表をする。</li> <li>・友達の発表のよかったところを聴き取って感想を言う。</li> </ul>	<p>自分たちがつくったリズムアンサンブルを発表したり、友達の発表を聴いたりする活動に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>(音楽への関心・意欲・態度④)</p>

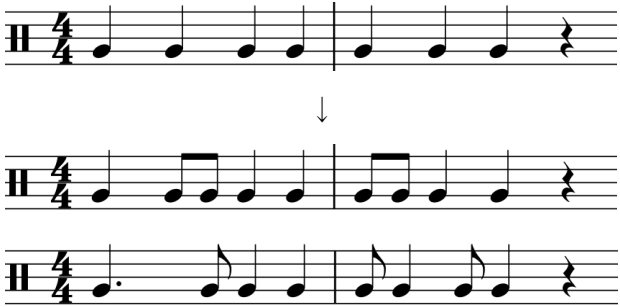


## 7 本時の学習

### (1) 目標

楽器の音色や響きのよさを感じ取りながら、それらの特徴を生かした2小節のリズムをつくる。

### (2) 展開 (8 / 10)

学習内容と学習活動	○教師の関わり ◆評価規準 (評価方法)
<p>1 常時活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今月の歌「夕日が背中をおしてくる」を歌う。</li> <li>・ 音符カードをみて、リズム打ちをする。</li> </ul> <p>2 本時の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の範奏を聴き、リズムづくりの見通しをもつ。</li> <li>・ 学習内容を確認する</li> </ul>	<p>○教師の関わり ◆評価規準 (評価方法)</p> <p>○児童の意欲を高めるために、本時の学習の雰囲気づくりをする。</p> <p>○グループでリズムアンサンブルをつくるために、各自で「リズム」をつくることを伝え、本時の学習問題に導く。</p> <p>○児童に創作意欲をもたせるために、タンブリンによる範奏を聴かせる。</p>
<p>楽器の音色や特徴を生かして、2小節のリズムをつくろう。</p>	
<p>3 2小節のリズムをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時のワークシートを振り返り、自分がつくりたいリズムのイメージを確認する。</li> <li>・ 「基本のリズム」を元にして、少しずつ音符を変えながらリズムをつくっていく。</li> <li>・ 実際の楽器で演奏をし、楽器の音色や響きにあったリズムを考える。</li> <li>・ つくったリズムと、なぜそのようなリズムにしたかをワークシートに記入する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">(基本のリズム)</p>  <p>4 つくったリズムをグループ内で発表しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3～4人のグループの中で、自分たちのつくったリズムを発表しあう。</li> <li>・ 楽器の特徴を生かしているか考え、アドバイスをしあう。</li> </ul>	<p>○一からリズムをつくるのが難しい児童には、音符のカードを使い、基本のリズム (四分音符7拍＋四分休符) を少しずつ変えながらリズムをつくらせるようにする。</p> <p>○つくったリズムが楽器の音色や響きと合っているか考えるように助言する。</p> <p>○リズムを声に出しながら演奏できるように練習させる。</p> <p>○つくったリズムが読めない児童には、音符とリズム読みの対応表の掲示を確認させる。</p> <p>○リズムを考えたが楽譜にできない児童には、つくったリズムがどの音符に当てはまるか考えさせる。</p> <p>◆いろいろな音楽表現から得た発想を基に、楽器の特徴を生かしたリズムをつくっている。 (音楽表現の技能) (観察・ワークシート)</p> <p>○発表する際は、リズムを声に出しながら演奏するように声をかける。</p> <p>○楽器の音色や響きがリズムとあっているか、組み合わせた時にバランスがとれるか、等に注意して聴かせ、必要に応じてアドバイスをさせるように</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のアドバイスをもとに試奏する。</li> </ul> <p>5 簡単なアンサンブルをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1パートずつ順番→全員という流れで簡単なアンサンブルをする。</li> </ul> <p>6 学習の振り返りをし、次時への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が指名したグループの簡単なリズムアンサンブルを聴き、本時の感想を書く。</li> </ul>	<p>する。</p> <p>○お互いのリズムをよく聴き、同じテンポで演奏ができるよう助言する。</p> <p>◆ 楽器の音色やリズムの特徴に興味・関心を持ち、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かしてリズムアンサンブルをつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度)〈観察・ワークシート〉</p> <p>○簡単なアンサンブルができたグループを紹介し、今回つくったリズムを元にアンサンブルをつくっていくことを伝える。</p>
---	---